関西

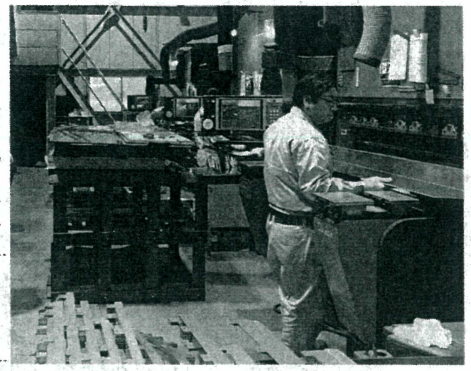
関西企業のチカラ

「鉄道車両の部品加工」 excellent

「しまかぜ」曲線 最新設備で

大阪など関西と伊勢志摩を結ぶ近畿日本鉄道の観光特急「しまかぜ」。躍動感あるデザインが特徴の車両には、金属加工のexcellent（エクセラント、大阪府東大阪市）の技が生きている。秋本倫宏社長（46）が率いる平均年齢32歳の若い会社だが、扉や通風管など様々な部品を加工、製造元の近畿車両に納めた。

鉄道車両は内装品、モーター、台車など数万の部品で構成される点で自動車と共通する。ただ、生産台数は圧倒的に少なく、通勤型でも1系列で数百両程度。鉄道会社や系列ごとにデザインも大きさも異なる。



アルミやステンレスを鉄道車両の部品に加工する（東大阪市）

量産品とは違い手間がかかるが、「1個の注文でも品質と納期に妥協はない」と秋本社長は強調する。3次元の図面作製ソフトやレーザー加工機、マシニングセンターなど最新鋭の設備をそろえ、設計図の作製から切断、曲げ、プレス、溶接など一貫して手掛ける。デザインに曲線が多いしまかぜの部品では、これら設備と社員の経験や技が存分に発揮された。

〈会社概要〉
▽創　業　1955年
▽本　社　大阪府東大阪市稲田新町2の5の6
▽事業内容　扉、連結器カバー、排気口など鉄道車両の金属加工部品の製造

現在は鉄やステンレスなどの加工を得意とするが、ルーツは秋本社長の祖父が興した木工関連会社だ。働く背中を見て育った秋本社長は「家業を残したい」と約20年前に不動産会社を退社。培った営業経験を生かして受注獲得に努め、「1個の部品でも引き受けます」と近畿車両の扉をたたいた。他社が敬遠する面倒な作業も引き受けることで信用を得た。

2008年に父から社長を引き継ぐとともに、技術に秀でた会社を目指し現社名に変更した。14年には、手狭な祖業の地から近畿車両近くの空き工場に本社も移転。同社との打ち合わせや納品などで機動力が増した。

作業環境の改善にも努めており、溶接工程の猛暑対策として冷却空気が流れる「エアコン服」を導入、工場も段階的に拡張している。鉄道は環境負荷が低い輸送手段として再評価されている。質の高い仕事をこなすため、技にも人にも目配りを欠かさない。

（東大阪支局長　苅谷直政）

トップの一言

増える若い社員 一体感を重視

秋本社長が実家にUターンしたとき、父を含めて3人だけだった会社は現在43人が働く。中途に加え近年は新卒も採用しており、この春も2人が加わった。「若い社員が多く組織の一体感を重視している」。チーム単位の食事会や全員参加のレクリエーションは欠かせない。

昨年から修学旅行生の見学も受け入れ始めた。秋本社長は「町工場の仕事を理解してもらうだけでなく、若者目線の感想を聞いて職場の改善に生かしたい」と話す。